

人間教育専攻

臨床心理士養成コース

中野 有沙

指導教員 葛西 真記子

1. 問題と目的

現代では、若者の抱える性交に関する問題として、デートDVや避妊、性感染症、膣内射精障害、セックスストレス、不妊症などが取り上げられることがある。中でも、若年男性の勃起障害（以下、ED）に対しては世界中で注目され始めている。日本においても、若年男性のEDの存在が各調査で明らかになり、若年男子にとってEDは特別珍しくない存在となりつつある。

日本性教育協会の調査結果によると、高校生や大学生において性行動に対して活発な者と不活発な者に分かれる分極化が生じている（林，2013）。高坂（2013）は、恋愛に対して拒否感をもつ群と自信の無い群が全般的に自我発達の程度が低かったことを示している。この両群は、恋愛に対する自信がなく、また恋愛する意義もわからない青年であり、拒否感をもつ群に至っては恋愛という親密な関係をもつことによって生じる心理的・時間的な負担を回避しようとして、恋人を欲しいと思っていない青年であった。この結果は、高坂（2013）曰く、Erikson（1959/2011）の「自分のアイデンティティに確信の持てない若者は、対人的な親密さを怖がって尻込みする」という指摘を支持するものである。しかし、交際している者の全てが自我発達の程度が高いとは限らない。なぜなら、若年男性が周囲からの圧力や相手との相互作用などによって恋愛や交際に至る場合も考えられるからである。

交際と性交が身近な若者社会において、性機能の低さや性交への消極的な態度があるが故に、交際に至ったとしても相手との関係が悪くなったり、交際に至らなかったりすることもありうるだろう。しかしながら、若年男性の恋愛を含む性行動に影響すると考えられる性機能の低さ、性や性交に対する否定的・回避的・消極的な態度との関連をみた研究は見当たらない。そこで、本研究では、現代の若年男性の性機能の程度および若年男性の性機能に影響すると思われる性や性交に対する態度、身体的健康、心理的健康との関連とそれが交際や性交行動に影響しているかどうかを明らかにすることを目的とした。

2. 方法

2014年7月下旬から8月下旬、18歳から30歳の若年男性121名（X大学とY大学の大学生および大学院生111名、その他社会人男性10名。平均年齢22.48歳、SD=2.82）を対象とし、年齢、身体的健康、心理的健康、IIEF日本語版（Rosen, 1997 木元, 2002）、性交に対する消極的な態度に関する質問25項目、性に対するネガティブな態度尺度（浜田, 2012）から構成された無記名方式の質問紙調査を行った。

3. 結果

（1）若年男性用IIEFについて

性交の有無に関係なく性機能の程度を検討するために、従来のIIEFからパートナーのいない者に対して回答が困難と思われた7項目と天

井効果がみられた1項目を除外し、主因子法・Kaiserの正規化を伴うPromax回転を行った結果、共通性の低かった2項目を除外し、再び因子分析を行った結果、5項目2因子構造となり、第1因子を「性機能活動頻度」 $\alpha=.836$ 、第2因子を「性欲」 $\alpha=.883$ と命名した。

(2) 性交に対する消極的な態度について

床効果がみられた11項目を除外し、残った14項目に対して、主因子法・Kaiserの正規化を伴うPromax回転を行った結果、第1因子を「関係優先型消極性」 $\alpha=.755$ 、第2因子を「自分優先型消極性」 $\alpha=.716$ 、第3因子を「使命感」 $\alpha=.603$ と命名した。

(3) 性交に対する消極的な態度と若年男性用IIEFとの関係：重回帰分析の結果、関係優先型消極性と使命感は性機能活動頻度に影響を与え、使命感のみが性欲に影響を与えていた(図1)。

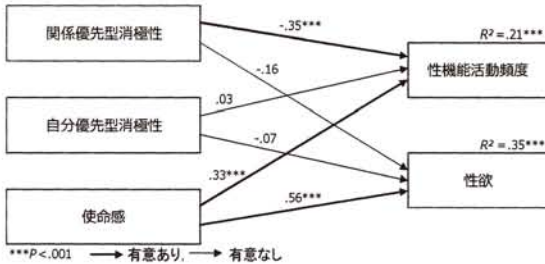


図1 性交に対する消極的な態度と若年男性IIEFとの関係

(4) 性に対するネガティブな態度と若年男性用IIEFとの関係：重回帰分析の結果、嫌悪・否定は性機能活動頻度と性欲に影響を与え、性的関心・他者への不安は性欲にのみ影響を与えていた(図2)。

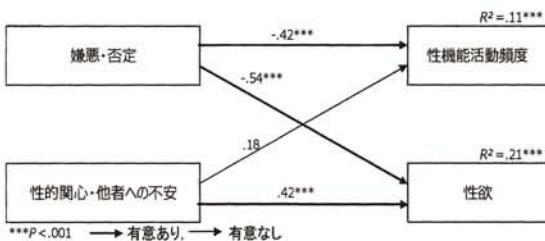


図2 性に対するネガティブな態度と若年男性用IIEFとの関係

(5) 若年男性用IIEFと交際行動との関係：

性機能活動頻度と性欲は現在の交際の有無に影響を与えていた(図3)。

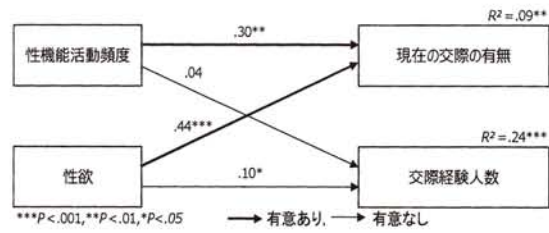


図3 若年男性用IIEFと交際に関する項目の関係

(6) 若年男性用IIEFと性交行動との関係：性機能活動頻度は全ての性交行動に影響を与えていたが、性欲はいずれの性交行動にも影響を与えていなかった(図4)。

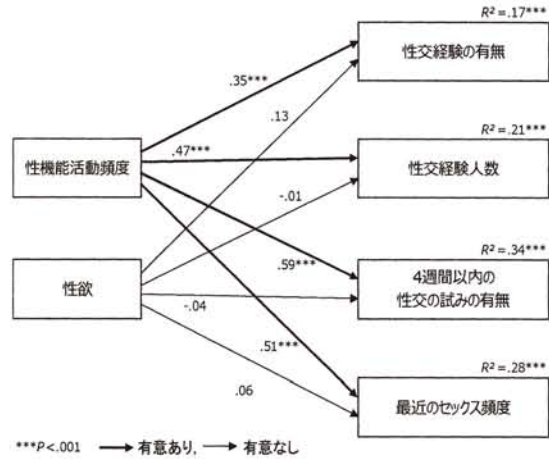


図4 若年男性用IIEFと性交行動に関する項目の関係

4. 考察

若年男性の性機能は性機能活動頻度と性欲に大別された。性交に対する消極的な態度の心理的特徴として、Erikson (1959) の「基本的信頼の感覚」「自律的意志の感覚」「積極性」が確立されていないことが各因子に表れていると考えられた。また、性交に対する消極的な態度や性に対するネガティブな態度は性機能に影響を及ぼし、それらは現在の交際に影響を与えていた。また、性機能活動頻度のみが性交行動に影響を与えていた。故に、若年男性の性交行動の消極化の背景には対人関係の基盤の不安定さによる性機能の低下が窺われることが示唆される。